

時代に乗り遅れない！
～今知りたいIT革命のすべて～

初めての法人向け生成AI導入

～グループワークで法人向け生成AIを体験～



アジェンダ

- はじめに
- 第1章 - 日本の生成AI導入状況について
 - 日本企業の生成AI導入状況
 - 日本の人口から見る労働環境の変化
 - 生成AI導入のリスクと課題
- 第2章 - 生成AIでできること
- 第3章 - グループワーク
- 当社サービスのご紹介
- 質疑応答

はじめに

登壇者紹介



株式会社セラク
みどりクラウド事業部 執行役員

小澤 康二

中小企業向けの広告・出版・流通関連の事業運営に20年以上携わる。その後、HRテック企業にて事業開発や営業コンサルティングを経験。

2021年 株式会社セラクに入社、現在は同社が力を入れる農業IoTサービス「みどりクラウド」、集出荷DXサービス「らくらく出荷」および法人向け生成AIサービス「NewtonX」の事業責任者を担当。

株式会社セラク

会社概要

| | |
|---------|---|
| 社名 | 株式会社セラク（英文名 SERAKU Co.,Ltd） |
| 設立 | 1987年12月 |
| 代表者 | 代表取締役 宮崎龍己 |
| 資本金 | 322,962,453円（2026年2月末現在） |
| 従業員数 | 連結3,290名（2025年11月末現在） |
| 所在地 | 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿プライムスクエア |
| グループ会社 | 株式会社セラクCCC 株式会社セラクビジネスソリューションズ AND Think 株式会社 株式会社マインド |
| 市場 | 東京証券取引所スタンダード市場 （証券コード：6199） |
| 事業所所在地 | ●東京本社 ●札幌支社 ●横浜支社 ●名古屋支社 ●大阪支社 ●福岡支社 |
| 農業IT研究所 | ●島根県奥出雲町 ●長崎県南島原市 |

主な事業内容

デジタルインテグレーション

ITシステム構築・運用・保守

- ITインフラ構築・運用
- ITシステム運用
- インフラソリューション

クラウド&ソリューション

- IoTクラウドサポートセンター
- サイバーセキュリティ

各種IT支援

- 金融社会システム
- 情報通信システム
- エンタープライズシステム
- サービスマネジメント
- QA（品質保証領域）

クラウドシステム定着・活用支援

- COMPANY導入・運用支援
- 各種クラウドシステム定着・活用支援
- Salesforce定着・活用支援
- デジタルマーケティング支援
- データサイエンス

みどりクラウド

農水産DXプラットフォーム

- 園場環境/畜舎環境計測・制御

機械設計エンジニアリング

セラクビジネスソリューションズ

- 機械設計、解析、精算技術

農水産ソリューション

- DXソリューション
- 営農販売事業DX化サービス

データサイエンス

- データサイエンスソリューション
- 生成AIサービス（NewtonX）

はじめに

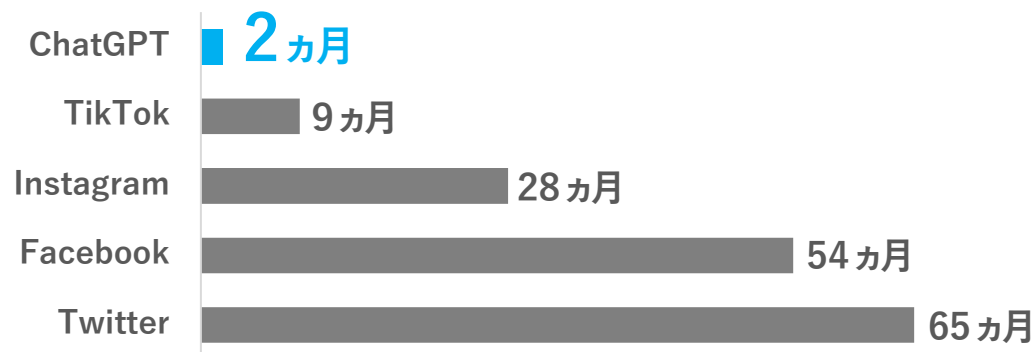
2022年11月
 ChatGPTリリース

はじめに

**驚異的なペースで
生成AIが全世界に普及**

はじめに

ユーザ数1億人到達までの期間



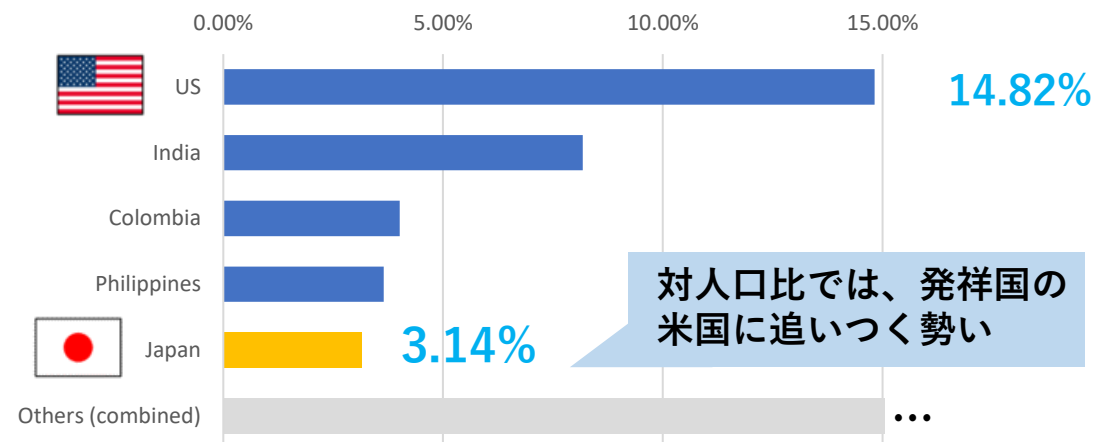
- 生成AI市場は、2032年には1.3兆ドルの年間利益を生み出すと予想。(Bloomberg2023調査)



インターネットやスマートフォン登場と同等のインパクトで、さらなる拡大が予想されていた

引用：<https://www.bloomberg.com/company/press/generative-ai-to-become-a-1-3-trillion-market-by-2032-research-finds/>
<https://explodingtopics.com/blog/chatgpt-users>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000231.000031387.html>
https://aismiley.co.jp/company_news/chatgpt-investigationresult/

2022年 ChatGPT利用率 (国別)



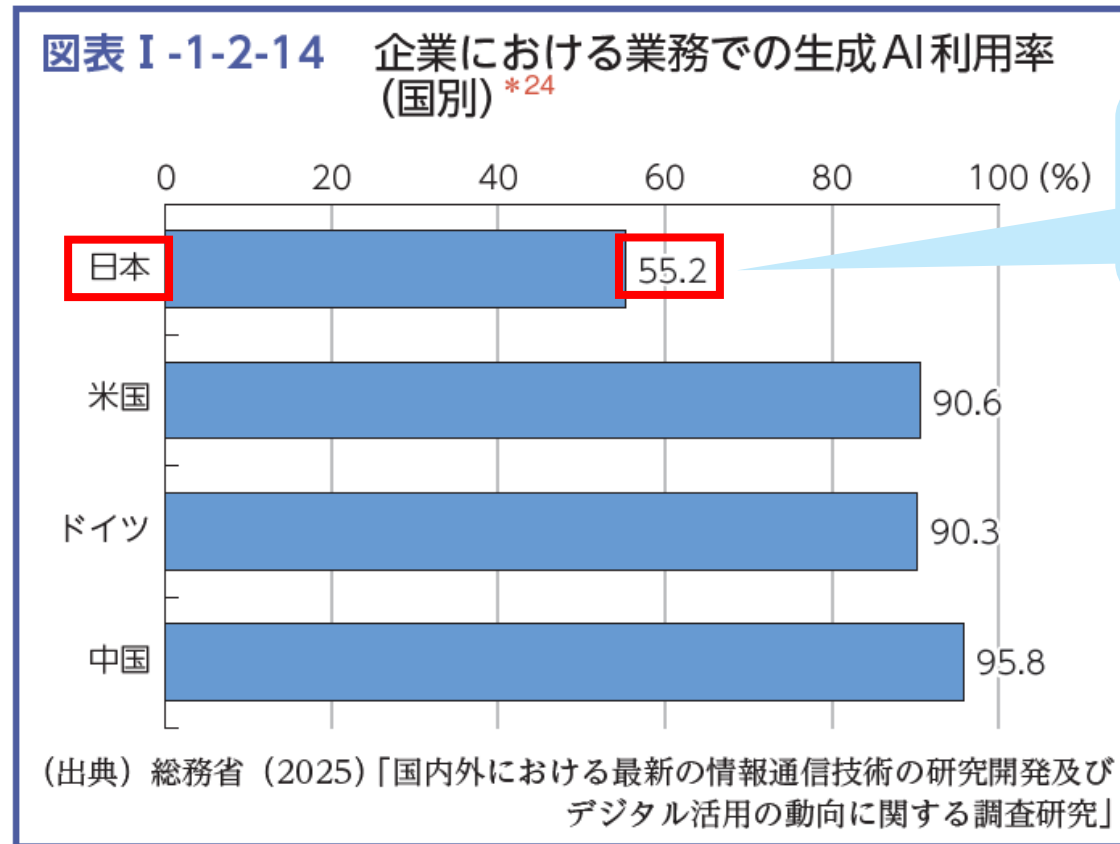
- 業務でChatGPTの利用経験があると回答した国内の企業人は全体の約4割 (モビルス社調査)
- 東証プライム上場企業の10%がChatGPTを利用 (アイスマイリー社調査)



2022年 既にビジネスにおける必須ツールの位置づけになりつつあると思われていたが、、、

2025年時点 生成AI業務利用(個人)の割合 … **55%**

※企業導入有無に限らず



先進各国よりも遅れをとっている

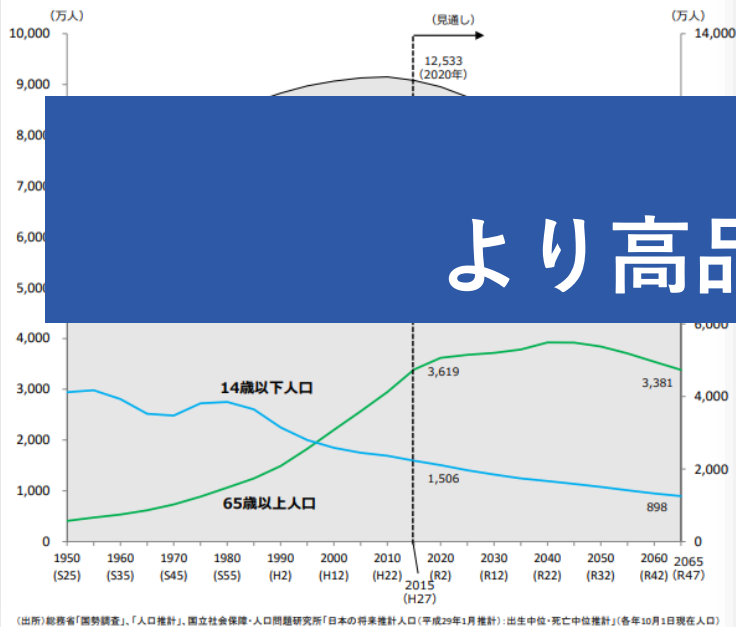
出典：「令和7年版情報通信白書」（総務省）より
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/pdf/n1120000.pdf>

日本国内の労働環境の変化

生産年齢人口の減少

人口減少と少子高齢化

- 生産年齢人口（15-64歳）は2065年に約4,500万人となる見通し（2020年と
- 2065年には、老年人口（65歳以上）の割合が約4割に高まる一方、生産年齢



引用：内閣府「税制調査会」
<https://www.cao.go.jp/zei-cho/content/2zen2kai1-2.pdf>

継続的な物価高騰

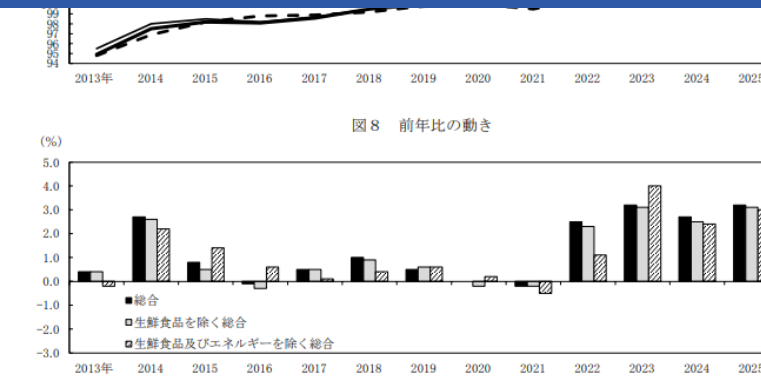
2025年(令和7年)平均

◎ 概況

- | | |
|------------------------------|-------------|
| (1) 総合指数は2020年を100として111.9 | 前年比は3.2%の上昇 |
| (2) 生鮮食品を除く総合指数は111.2 | 前年比は3.1%の上昇 |
| (3) 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は110.3 | 前年比は3.0%の上昇 |

限られた時間で

より高品質の作業が求められるように



引用：「2020年基準消費者物価指数」（総務省）
<https://www.stat.go.jp/data/cpi/sokuhou/nen/pdf/zen-n.pdf>

雇用の多様化

報道関係者 各位

「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（令和6年10月末時点）

※PDF「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（令和6年10月末時点）の一部訂正について（令和8年1月30日更新） [545KB]

届出状況のポイント

- 外国人労働者数は2,302,587人で前年比253,912人増加し、届出が義務化された平成19年以降、過去最多を更新し、対前年増加率は12.4%と前年と同率。
- 外国人を雇用する事業所数は342,087所で前年比23,312所増加、届出義務化以降、過去最多を更新し、対前年増加率は7.3%と前年の6.7%から0.6ポイント上昇。
- 国籍別では、ベトナムが最も多く570,708人（外国人労働者数全体の24.8%）、次いで中国408,805人（同17.8%）、フィリピン245,565人（同10.7%）の順。
- 在留資格別では、「専門的・技術的分野の在留資格」が届出義務化以降、初めて最も多くなり718,812人、前年比122,908人（20.6%）増加、次いで「身分に基づく在留資格」が629,117人、前年比13,183人（2.1%）増加、「技能実習」が470,725人、前年比58,224人（14.1%）増加、「資格外活動」が398,167人、前年比45,586人（12.9%）増加、「特定活動」が85,686人、前年比14,010人（19.5%）増加。

引用：「外国人雇用状況」の届出状況まとめ」（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_50256.html

一方で…



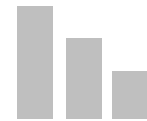
「メール作成」に
費やす時間は
1日81分



「調べもの」に
費やす時間は
毎日1.6時間



「議事録作成」に
費やす時間は平均
約320時間/年



「資料作成」の
年間推定損失コストは
**619時間、
約167万円/人**

ビジネスパーソンは
1日あたり最大で **6時間** を生成AIで代用できるサブ業務に費やしている

生成AIへの関心が高まっている

参考：<https://webtan.impress.co.jp/n/2021/06/08/40431>
<https://kokuyo-furniture.co.jp/solution/mana-biz/2019/11/16.php>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000052185.html>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000086224.html>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000939.000013943.html>

**業務効率化、生産性向上
が求められるのは明らかなのに
なぜ日本では企業導入が
進まないのでしょうか？**

日本企業の生成AI導入状況

生成AI導入検討時の目的

属人的な業務を減らしたい

1 生産性向上

新人・若手でも
質のよい作業ができるように

2 人材不足解消

できなかったことを誰もができるように
今までとは違う視点を取り入れるために

3 データ分析力向上

4 外国語コミュニケーション向上

5 社内コミュニケーション向上

⋮

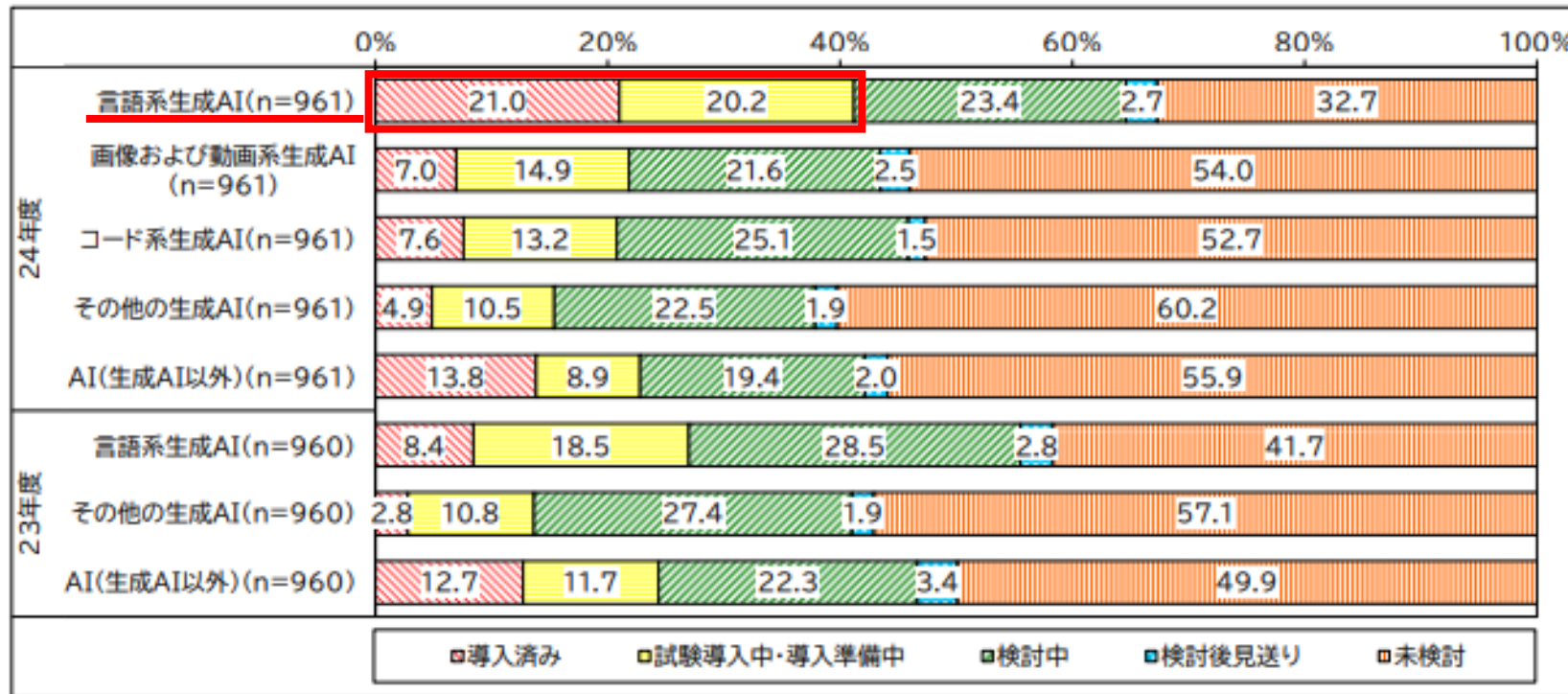


日本企業の生成AI導入状況

言語系生成AIの導入企業 … 約40%

2023年度から
約15%増

図表 9-3-1 「AI」の導入状況



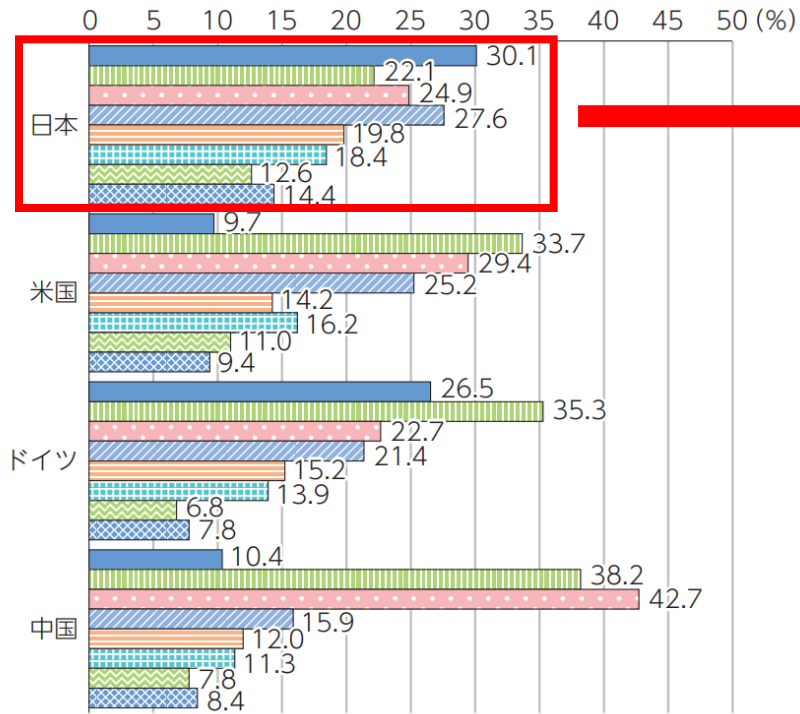
出典：「企業IT動向調査報告書2025」（一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会）より
https://juas.or.jp/cms/media/2025/04/JUAS_IT2025.pdf

導入が進まない理由

- ①セキュリティリスク
- ②回答精度が悪い
- ③活用方法が難しい

導入に対する懸念

図表 I-1-2-15 生成AI導入に際しての懸念事項 (国別)



(出典) 総務省 (2025) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

出典: 「令和7年版情報通信白書」(総務省)より
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/pdf/n1120000.pdf>

- 効果的な活用方法がわからない
- 初期コストが掛かる
- ランニングコストが掛かる
- 社内情報の漏洩などのセキュリティリスクがある
- 著作権等の権利を侵害する可能性がある
- 出力結果の精度に問題がある
- 出力結果に倫理上不適切な内容や偏見が含まれる可能性がある
- 懸念事項はない

セキュリティ、活用面や回答精度への
 漠然とした不安が導入を妨げている



生成AI導入のリスクと課題の解決方法

主な3つのセキュリティリスク

情報漏洩のリスク

入力したデータはAI開発元の
学習に使われてしまう



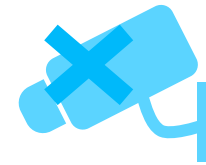
誤回答のリスク

回答をそのまま
業務で利用するのは危険



管理面のリスク

アカウントの管理や
入力内容の監査ができない



出典 <https://pc.watch.impress.co.jp/docs/news/yajiuma/1490904.html>
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN30E450Q3A530C200000/>

セキュリティ

情報漏洩のリスク

入力したデータはAI開発元の
学習に使われてしまう



**事例：Samsung、ChatGPTの社内
利用で3件の機密漏洩**

Samsung Electronicsが社内で
ChatGPTの使用を許可したところ、
機密性の高い社内情報をChatGPT
に入力してしまう事案が発生した。

誤回答のリスク

回答をそのまま
業務で利用するのは危険



**事例：ChatGPTで資料作成、実在
しない判例引用 米国の弁護士**

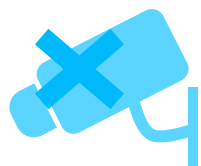
米東部ニューヨーク州の弁護士が審
理中の民事訴訟で資料作成に
ChatGPTを利用した結果、存在しな
い判例を引用してしまった。

出典 <https://pc.watch.impress.co.jp/docs/news/yajiuma/1490904.html>
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN30E450Q3A530C2000000/>

セキュリティ

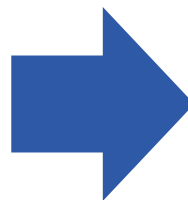
管理面のリスク

アカウントの管理や
入力内容の監査ができない



お困りごとの例

- ・ 個人単位での使用を許可しているが管理が煩雑になり、管理コスト増
- ・ ログが確認できず、知らない間に著作権や商標権など権利侵害のリスクあり



「利用禁止」のリスク

従業員が隠れて
許可していないAIを使用

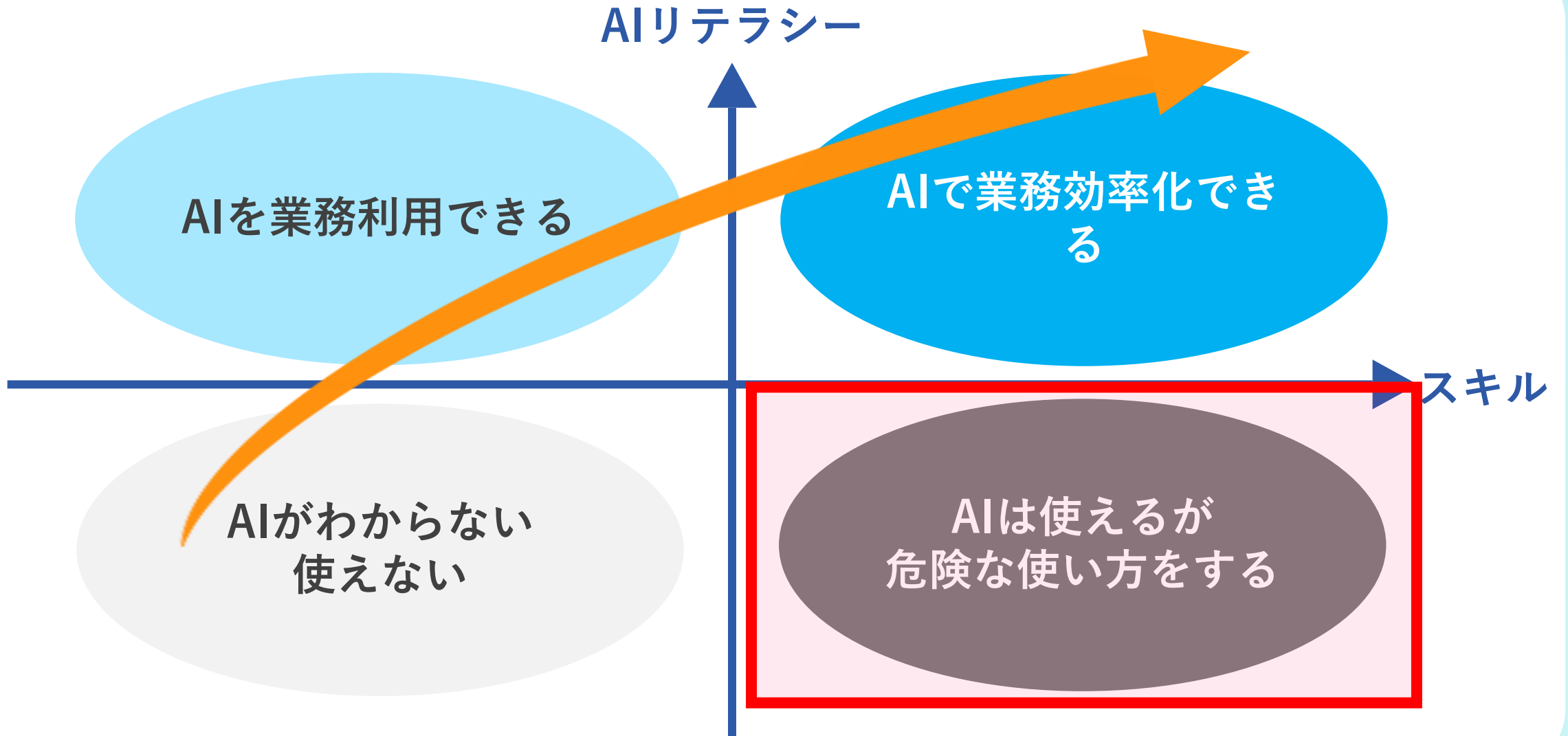


お困りごとの例

- ・ 利用禁止としたことで、従業員が隠れてAIを利用しており、情報漏洩やコンプライアンス上の懸念が増大

参考 <https://mnb.macnica.co.jp/2026/02/aisecurity/shadowai.html>

活用・定着における4タイプ



活用・定着

活用の難易度

活用レベルが社員個人のスキルによって左右される

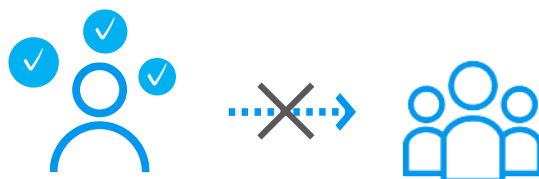


お困りごとの例

- ・社員から「業務では使えない」とクレームが入った
- ・検索エンジンの代わりとして使われている
- ・社員が誤った回答を信じてしまう

ノウハウ構築

成功体験共有ができず事例がたまらずに属人化が進む

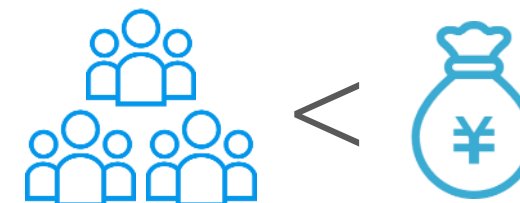


お困りごとの例

- ・プロンプト（指示文）の開発に膨大な時間がかかっている
- ・使用用途がなかなか広がらず陳腐化している

費用対効果

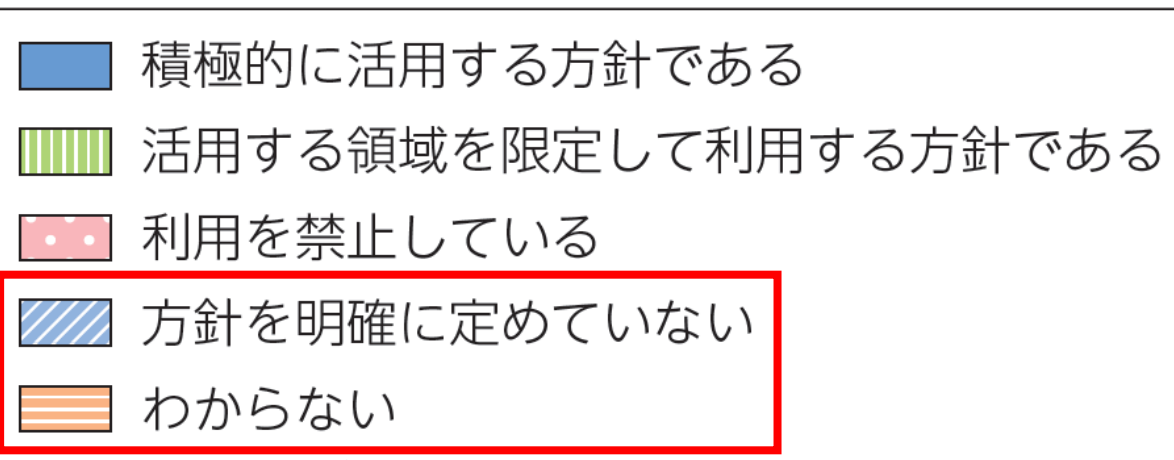
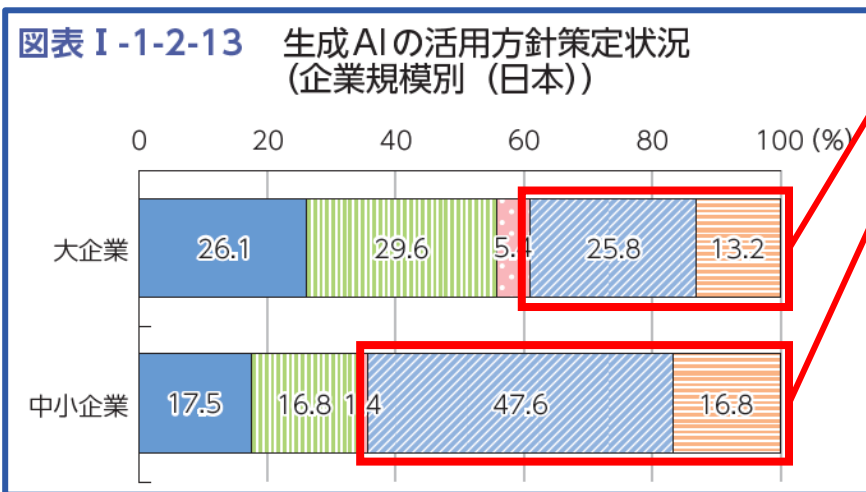
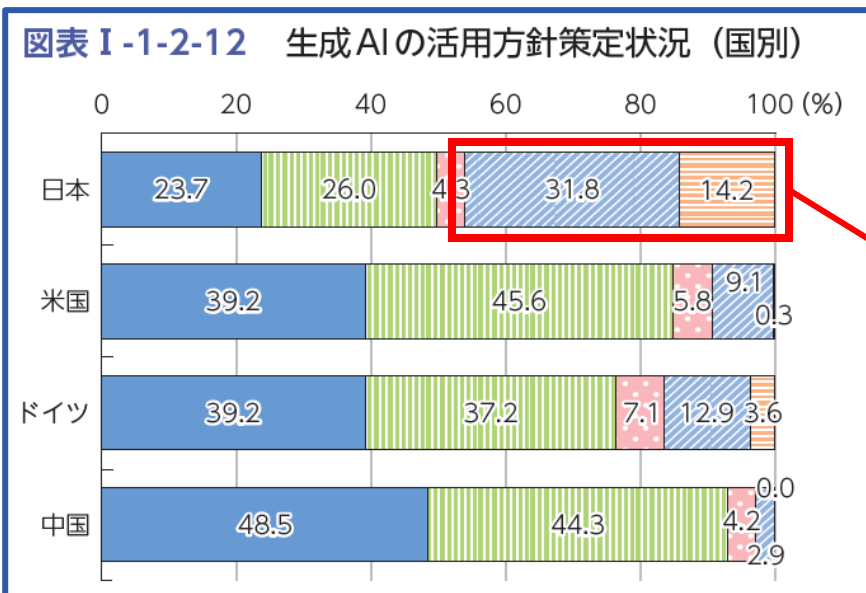
導入後にユーザーが利用しない可能性



お困りごとの例

- ・利用率が低い
- ・利用頻度が低い
- ・利用されないため、期待していた効果もない

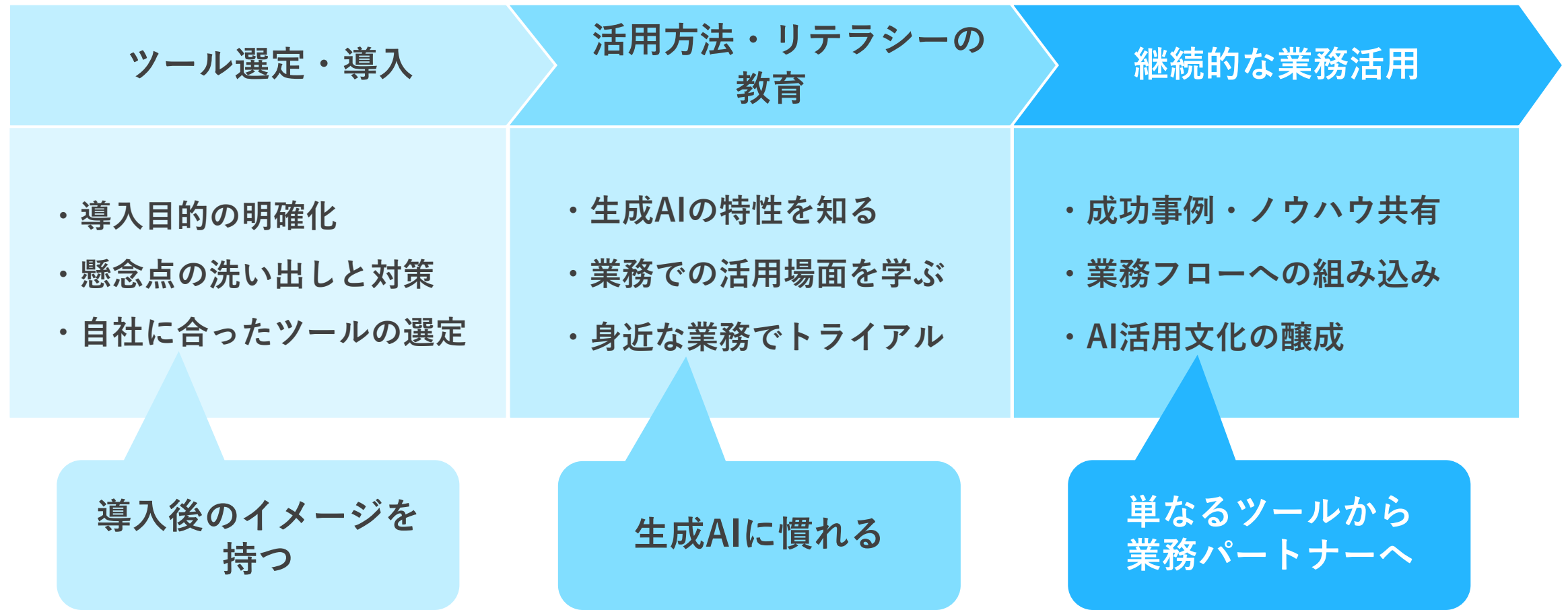
(補足) 活用方針の策定も課題



導入が進まない理由にも

引用：「令和7年版情報通信白書」（総務省）より
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/pdf/n1120000.pdf>

導入から運用までのロードマップ

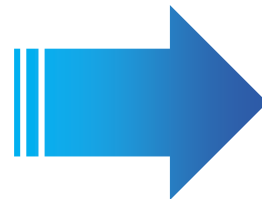


どのようなツールを選ぶべきか

汎用型

壁打ち、調査、文章作成など
共通業務に広く利用

- ・まず生成AIを使ってみる
- ・少しずつ業務に入れてみる
- ・日常業務で運用してみる



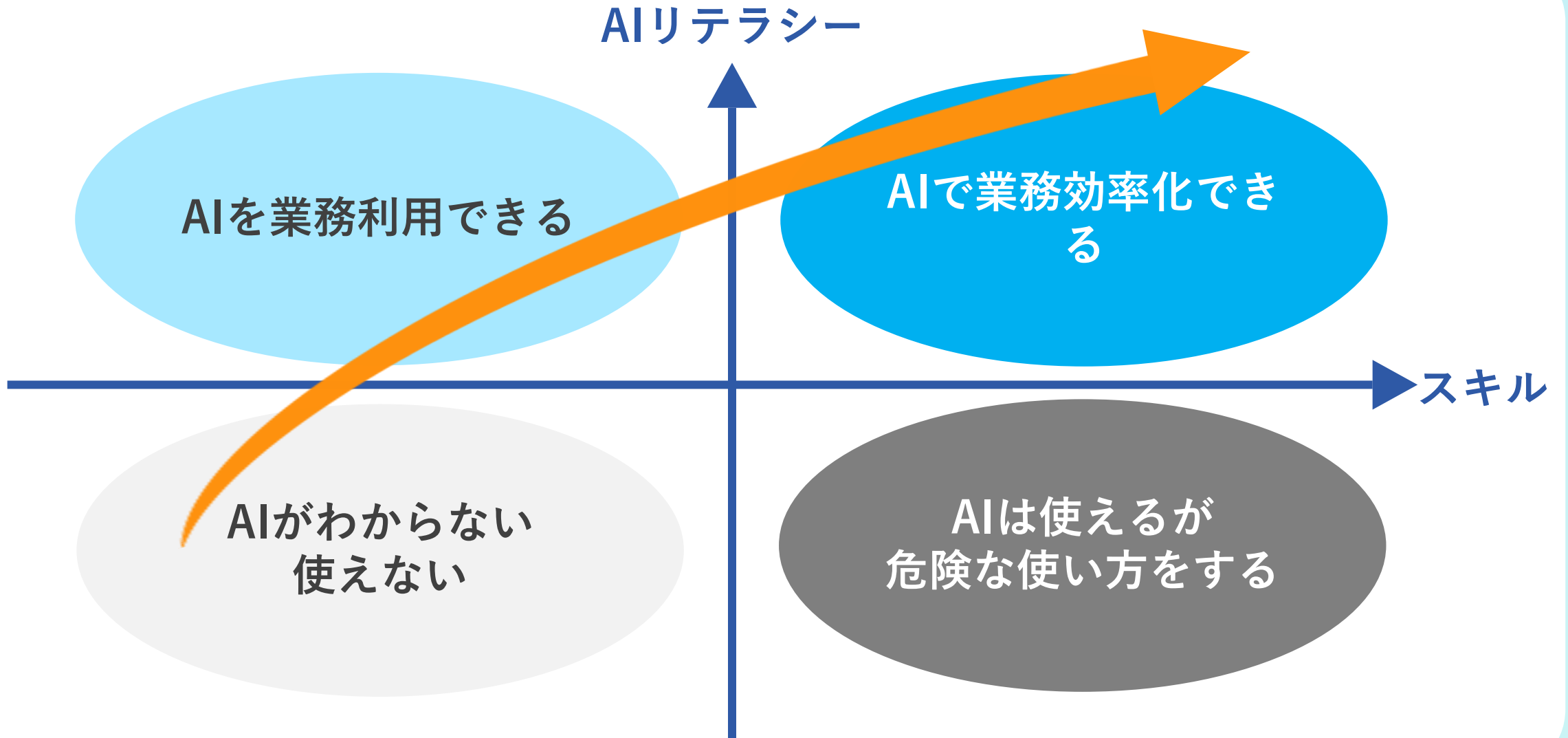
業務特化型

契約書チェック、設計提案など
専門性の高い業務へ利用

- ・汎用型の活用レベルが高い
- ・汎用型では対応できない
専門領域に生成AIを活用したい

企業ではじめて生成AI導入を検討する場合は
汎用型が多い

活用・定着における4タイプ



(補足) 活用方針の策定も課題

デジタル社会推進標準ガイドライン DS-920

行政の進化と革新のための生成 AI の調達・利活用に係るガイドライン

2025
デジタル

別紙2

〇〇省 生成 AI システム利活用ルール(ひな形 Ver1.0)

令和〇年〇月〇日

【ドキュメントの位置づけ】
Normative
政府情報システムの整備

1. ルールの目的

本ルールは、〇〇省職員による生成 AI の適正な利活用を促進するため、「行

【概要】

生成 AI の利活用促進
生成 AI のガバナンス、各
ライン。

※「DeepSeek 等の生成 AI の業務利用に関する注意喚起 (事務連絡)」⁴についても併せて確認されたい。

(1) 利活用前のルール

- 生成 AI の利活用は、様々な便益が期待される一方、要機密情報の流出やハルシネーションなどのリスクがあることを理解すること (生成 AI による便益とリスクについては、「行政の進化と革新のための生成 AI の調達・利活用に係るガイドライン」の「5 生成 AI による便益とリスクを理解した利活用推進」を参照。)
- 生成 AI システムの企画者又は提供者 (政府職員又は国民が利活用する生成 AI システムを運営する政府職員。以下同じ。) から説明された利用方法、セキュリティ上の留意点、生成 AI の出力についての精度及びリスクの程度を理解すること。(例: 利活用できる生成 AI の環境、利用条件、ルール、相談先、情報セキュリティインシデント (JIS Q 27000:2019 における情報セキュリティインシデントをいう)・生成 AI システム特有のリスクケース発生時対応等を利活用前に理解しておく。)
- 生成 AI システムへの入力結果及び出力結果は、必要に応じて生成 AI システムの提供者に提供する必要がある旨事前に了解すること (例: PJMO (プ

AI 事業者ガイドライン

第5部 AI 利用者に関する事項

AI 利用者は、AI 提供者から安全安心で信頼できる AI システム・サービスの提供を受け、AI 提供者が意図した範囲内で継続的に適正利用及び必要に応じて AI システムの運用を行うことが重要である。これにより業務効率化、生産性・創造性の向上等 AI によるイノベーションの最大の恩恵を受けることが可能となる。また、人間の判断を介在させることにより、人間の尊厳及び自律を守りながら予期せぬ事故を防ぐことも可能となる。

AI 利用者は、社会又はステークホルダーから AI の能力又は出力結果に関して説明を求められた場合、AI 提供者等のサポートを得てその要望に応え理解を得ることが期待され、より効果的な AI 利用のために必要な知

政府や自治体からの案内も是非参考に！

AI システム・サービスを利用する (F2) 安全性)

- ◇ 正確性・必要な場合には最新性 (データが適切であること) 等が担保されたデータの投入を行う (F2) 安全性)
- ◇ AI の出力について精度及びリスクの程度を理解し、様々なリスク要因を確認した上で利用する (F2) 安全性))
- U-3) i. 入力データ又はプロンプトに含まれるバイアスへの配慮
 - ◇ 著しく公平性を欠くことがないよう公平性が担保されたデータの投入を行い、プロンプトに含まれるバイアスに留意して、責任をもって AI 出力結果の事業利用判断を行う (F3) 公平性))
- U-4) i. 個人情報の不適切入力及びプライバシー侵害への対策
 - ◇ AI システム・サービスへ個人情報や不適切な入力がないよう注意を払う (F4) プライバシー保護))
 - ◇ AI システム・サービスにおけるプライバシー侵害に関して適宜情報収集し、防止を検討する (F4) プライバシー保護))
- U-5) i. セキュリティ対策の実施
 - ◇ AI 提供者によるセキュリティ上の留意点を守る (F5) セキュリティ確保))

引用: 「行政の進化と革新のための生成 AI の調達・利活用に係るガイドライン」 (デジタル庁)
https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e2a06143-ed29-4f1d-9c31-0f06fca67afc/80419aea/20250527_resources_standard_guidelines_guideline_01.pdf

引用: 「AI 事業者ガイドライン (1.1 版)」 (総務省/経済産業省)
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20250328_1.pdf

生成AIでできること

幅広い活用ができる

文章作成

調べもの

アイデア出し

データ整理

資料作成

翻訳

職種別の活用例

総務

- ・社内向け案内文作成
- ・問合せへの回答文面・FAQ作成
- ・Excel関数・VBAサポート
- ・稟議書作成補助
- ・備品チェックリスト作成

人事

- ・採用募集要項、求人票の作成
応募者スクリーニング
- ・人事評価・スキル・強みの分析
- ・研修コンテンツ・テスト作成
- ・アンケート作成・分析

営業

- ・電話やメール等の文章案
テレアポの SCRIPT 作成
- ・顧客の課題・ニーズの推測
- ・商談後の質問予測、回答案作成
- ・提案書・議事録作成

法務

- ・契約・税務文書のドラフト生成
- ・知財関係、過去の判例等の
リサーチ補助
- ・法律相談の内容整理
- ・社内ルールのドラフト生成

マーケティング

- ・市場リサーチ、レポート作成
- ・フレームワーク分析
- ・カスタマージャーニー案作成
- ・広告・コピー案の提示
- ・SNS・WEBメディアの記事作成

情報システム

- ・データ分析補助
- ・設計・コーディング補助
- ・テスト計画書の作成
- ・システム利用マニュアル作成
- ・リスク評価の補助

事例① ～電力会社様～

導入前の課題

従業員がコア業務に専念できる
環境を整備したい

他社サービスを導入したものの
定着の難しさを実感

悩みどころ

導入済みツールの運用拡大か
ユーザーの使いやすさか

導入後の期待

導入後のサポート

勉強会開催や
プロンプト提供に安心感

注目ポイント

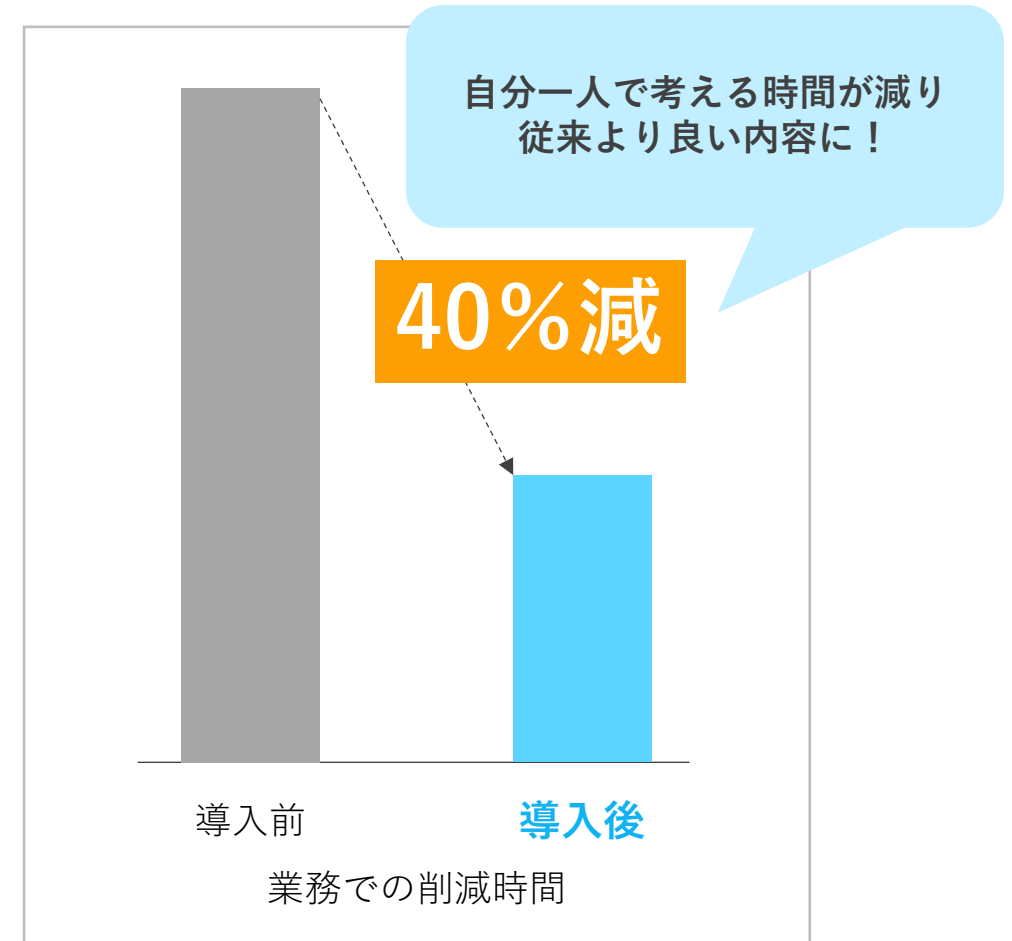
全社規模の活用拡大に向けて
活用スキルの個人差を
埋めていきたい

事例① ～電力会社様～

主な利用用途

| 例 | 内容/場面 |
|---------|------------------------|
| 文章作成 | メール・案内文・スピーチ原稿 |
| 議事録 | 顧客打合せ、社内会議 |
| 資料作成 | 会議資料・報告書の項目作成 発表用原稿 |
| 調査 | 法令・制度検索、用語言い換え |
| プログラミング | システム開発、Excel活用 |
| アイデア出し | 過去事例から解決策を提案 |

活用効果



事例② ～自動車ディーラー様～

導入前の課題

手作業やルーティンワークなど
通常業務の効率化

手作業やアイデア出しが多く
常に業務に追われている

悩みどころ

生成AIで効率化できる作業と
別の自動化ツールの導入を
検討する必要がある

導入後の期待

導入成功と
業務時間短縮

初めての導入のため
生成AIの基本からサポート

注目ポイント

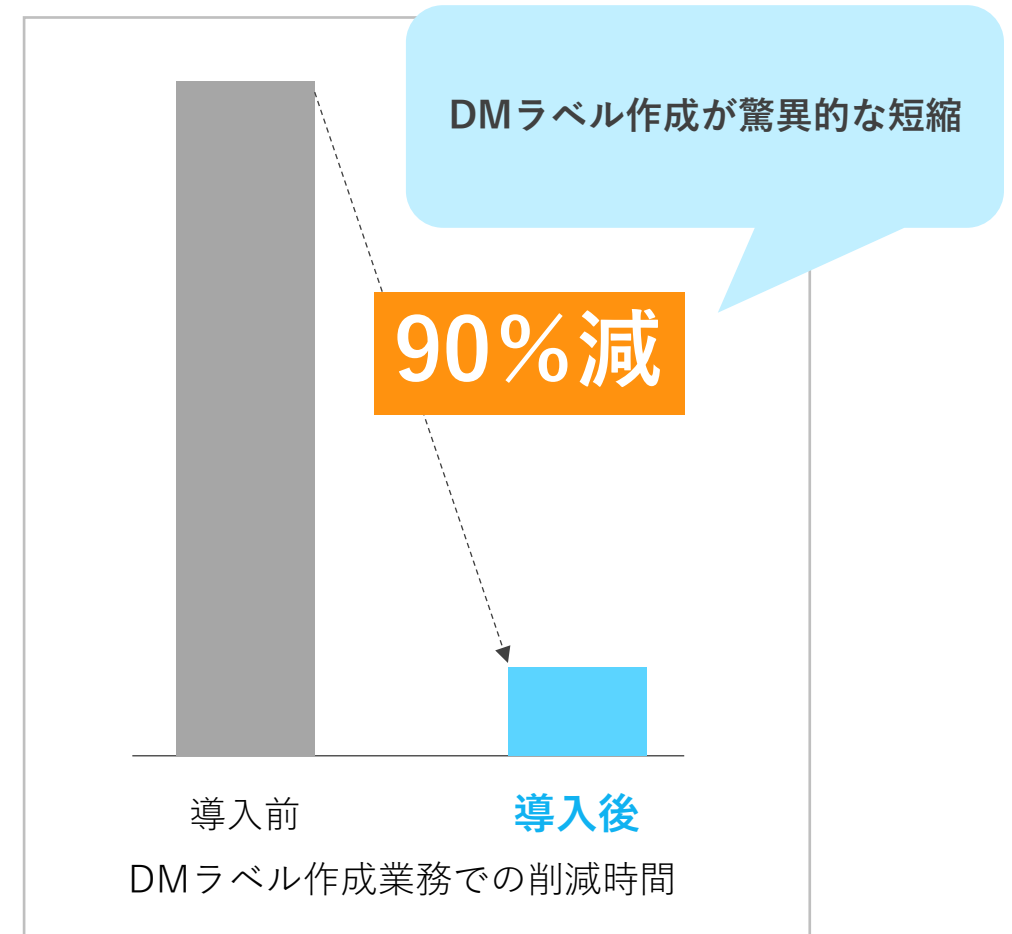
生成AIのリテラシー教育から
業務に直結した活用提案

事例② ～自動車ディーラー様～

主な利用用途

| 例 | 内容/場面 |
|--------|---------------------------------|
| 情報整理 | DMラベル作成 |
| 調査 | 法令・制度、広告関連 |
| 文章作成 | 文章校正、顧客向け文章 営業トークスクリプト |
| FAQ | 社内問い合わせ (社内規定、マニュアル) |
| データ集計 | 関数・VBAコード生成 データ管理システムのコードや設定 |
| アイデア出し | SNS・マーケティング 研修関連資料 |

活用効果



グループワーク

- ①グループ内で自己紹介（1人1分程度）
- ②リーダーを1名選出

①生成AIに『他己紹介』をしてもらいましょう！

リーダーの自己紹介を聞き、他己紹介のスピーチ原稿を作成しましょう！

▼流れ

- ①皆さんでリーダーに質問し、得られた情報をシートに記入
- ②担当者に従い、生成AIを使用してスピーチ用の他己紹介文を作成する
- ③発表
- ④応用例のご紹介

(休憩) 議事録作成ツールを体感してみましょう！

皆さんが自己紹介をしている間に録音をしていました。
生成AIを活用した「議事録作成ツール」を使用して、
議事録を作成してみましょう。

② 『社内問合せ』 をすぐに解決しましょう！

皆さんは総務担当です。

毎日多くの社員から問合せがあり、確認と回答に追われています。

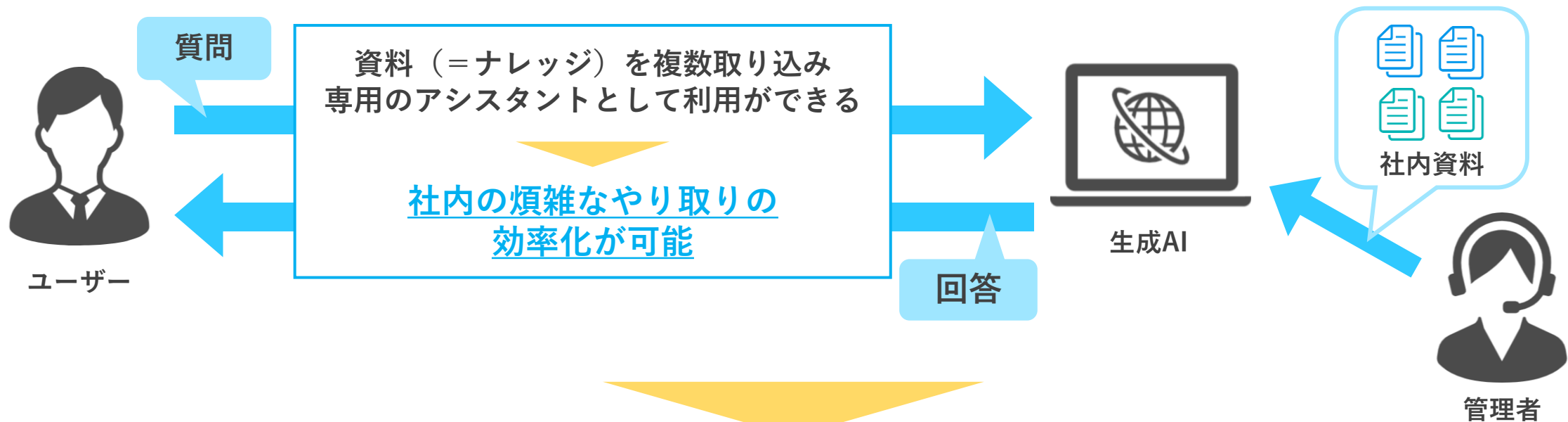
生成AIでどんなことができるか、試してみましょう。

▼流れ

- ① 社内資料の活用例について説明
- ② 生成AIに例で質問を試してみる
- ③ 生成AIに入力する質問を考えてみる
- ④ 応用例のご紹介

社内資料を利用した生成AIの活用例

検索ツールや問い合わせ窓口としてご活用いただけます



活用例①

社内規定を取り込んで
社内FAQとして利用

活用例②

顧客提案資料を蓄積して
過去事例を検索

活用例③

新人向けの
教育担当として活用

グループワークのまとめ

生成AIは作業を代行し
新たな「気づき」をくれるパートナー。

「速くできる」「質が上がる」の第一歩へ！



当社サービスのご紹介

NewtonXのコンセプト

“Empowering for Anyone with AI”

NewtonX

powered by GPT

安全に利用できるAI

考えずに利用できるAI

生成AIの利用に対する不安

生成AIを業務に活用するために
解決すべき課題

頭を使わせるUX

生成AIの活用

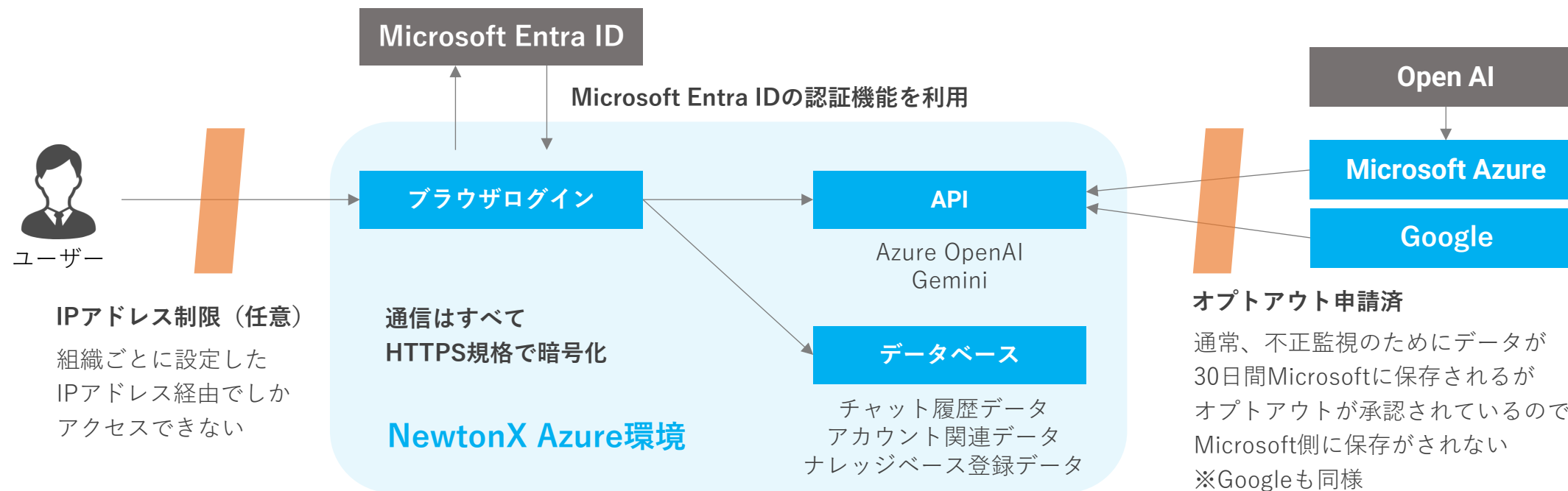
事業の成長と収益拡大

デジタル化によって得られた膨大なデータの有効活用
より創造的で高付加価値な業務への集中による事業価値向上

セキュリティ詳細

安全性の高いセキュリティ

- IPアドレス制限により社内ネットワークからのみアクセス可能 → 外部からの不正アクセスを防止
- 安全性の高いMicrosoft Entra IDの認証機能を利用 → よりセキュアな多要素認証も利用可能
- 通信はHTTPS規格を使用して暗号化 → データを第三者による盗聴や改ざんから保護
- NewtonX環境下でのデータ保持のためOpen AI/Microsoft Azure/Google Geminiへの学習には利用されない



アプリ搭載機能

チャット形式でやり取りで回答を生成 セキュリティが担保された環境下での構築



外



世の中に存在している学習済み情報から回答生成

Webブラウジング機能

独自の調整により最新情報を用いた正確な回答を提供し誤回答を防止

データ取り込み

社内ファイルを読み込ませることで社内情報を含んだチャットが可能

質問文（プロンプト）テンプレート

用意されたテンプレートを使うことで質問文の入力の手間を削減

管理者画面

利用ログやユーザーの利用状況の確認、アカウントの一元管理が可能

個人情報/禁止ワード検知

個人情報や禁止ワードを自動検知し、機密性の高い情報が送信されることを防止

認証ルール設定

Microsoft365アカウントでのシングルサインオンを可能とし個人アカウントでの運用を防止

内



世の中に存在しない独自の内部情報から回答生成

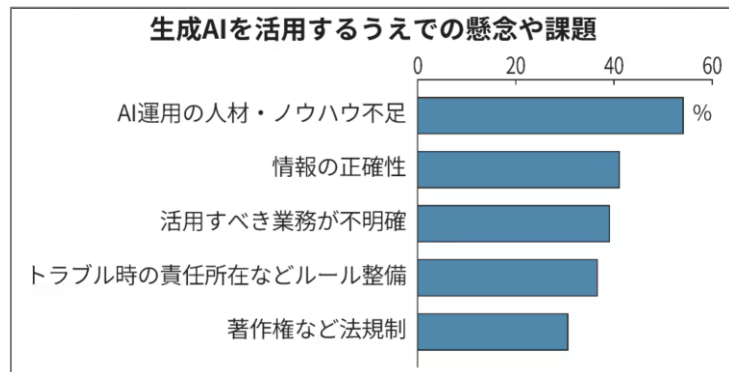
ナレッジコネク

組織単位でアップロードした社内ファイルに基づいた回答を提供し、不要な問い合わせの削減や過去ナレッジの有効活用を可能にする

オプション

伴走支援

専任担当による定着支援



出典：帝国データバンクの調査
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC236A00T20C24A7000000/>

生成AI活用にあたり「AI運用の人材・ノウハウ不足」による運用体制が滞るケースが後を絶ちません。

ツール導入だけで終わってしまうと、使用する社員や業務利用場面が偏り、組織全体の業務改善効果は得られません。



NewtonXでは「専任パートナー」として、お客様全体の生産性向上を目指し
組織の文化として定着するまで伴走いたします。

Step1：「理解する」

現状と課題の可視化
生成AI活用法の発見



Step2：「使える」

業務利用の推進
現場の利用定着



Step3：「自走する」

全社的な業務改善
継続的なPDCA

伴走支援

支援メニュー例



プロンプト提供

ご用意しているテンプレートに加え、業務内容に合わせたプロンプトを提供いたします。



説明会・勉強会

活用レベルや部署ごとなどの単位で勉強会を開催し、個別のお悩みや課題を解決いたします。



定期的な進捗共有会・ 推進戦略ミーティング

レポートを基に定期的にご担当者様と打合せを実施し、今後のご支援について方向性・内容を定めます。

| 説明会・勉強会（例） | 実施内容 |
|----------------|--|
| リテラシー強化勉強会 | 生成AIや利用するうえでの注意点、活用のコツについて解説 |
| プロンプト作り方講座 | 指示文の特徴を説明し、効果的な指示文の作成方法をワークを通じて学ぶ |
| 資料作成・Excelサポート | 部門間で共通する資料作成やExcel利用における効果的な活用術をレクチャー |
| 業務・タスク別相談会 | 部門ごとに異なる「業務」「タスク」を細分化し、日常業務に組み込める活用方法を共有 |

お客様のご状況・ご要望に合わせてカスタマイズさせていただきます。

質疑応答